

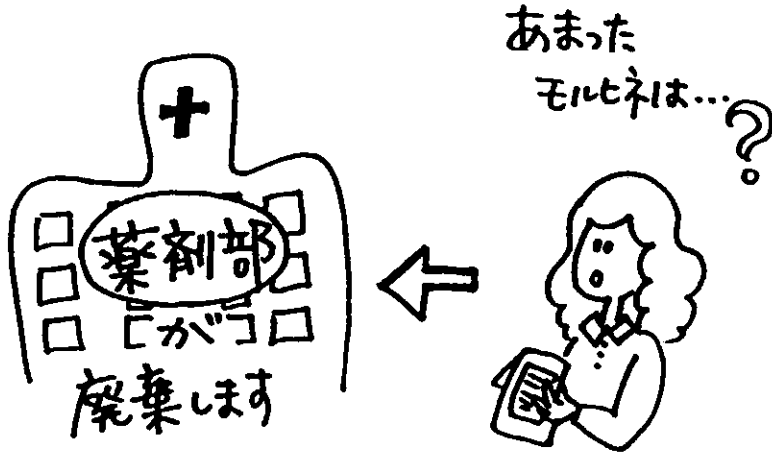
処方の変更になったり、別の病院に入院したなどの理由で、余ってしまった「モルヒネなどの痛み止め」はどうしたらよいのですか？

A

「モルヒネなどの痛み止め」をしまっておいて、本人以外の方に使うことは、法律（麻薬及び向精神薬取締法）によって行なってはいけないことになっています。必要がなくなり、残ってしまった「モルヒネなどの痛み止め」は、他に利用できないように廃棄（捨てること）する必要があります。

廃棄には手続きが必要なため、病院や薬局に持ってきていただければ、残った「モルヒネなどの痛み止め」の廃棄をお手伝いいたします。

患者さんの痛みを取り除くためのモルヒネの使い方を簡単



に、しかも便利にするための法律改正が平成2年度に行なわれました。例えば、痛み治療のためにモルヒネを使っている患者さんも、国の許可を受ければ、モルヒネを使いながら海外旅行ができるようになりました（Q & A 42 参照）。厚生労働省や医療機関、医療従事者は患者さんの痛みを取り除くことに一生懸命になっています。分からないことがありましたら、担当医にどんなことでもお問い合わせください。

「モルヒネなどの痛み止め」を使うようになると、旅行なんてとんでもないと思っていました。海外旅行もできるのですか？自分で使っている「モルヒネなどの痛み止め」の携帯許可をもらうためには、具体的にどうすればよいのですか？

A

ご自分の痛みの治療に必要な「モルヒネなどの痛み止め」の携帯許可をもらう



39

冷蔵庫に入れておいた水薬（モルヒネ）を子供が間違っ
てのんでしまったのですが、どうすればよいのでしょうか？

A

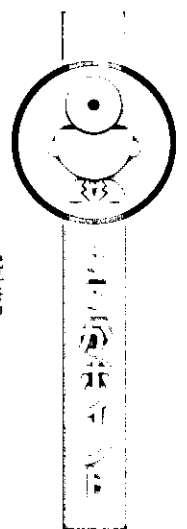
できるだけ早く、近くの医療機関を受診してください。
その時にのんだ薬の内容が分かるものを持参してください。
お子さまがのんでしまった薬の量や時間などを、
できるだけ詳しく説明してください。また、このよう
なことが起こらないように、薬の保管場所には普段から、
十分注意してください。

分からないことがありましたら遠慮なく担当医または
薬剤部へご連絡ください。



40

モルヒネの水薬に限らず、薬はお子さまの手が
届かないところにしまっておきましょう。

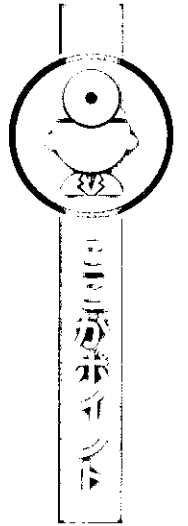


しつぷ薬と間違えてフェンタニルの貼り薬（デュロ
テップ® パッチ）をほかの人が使ってしまったので
すが、どうすればよいのでしょうか？

A

間違えて貼ったフェンタニルの貼り薬をすぐにはが
して、近くの医療機関を受診してください。その時に、
はがしたフェンタニルの貼り薬をお持ちになり、何時
に貼り、何時にはがしたかを説明してください。また、
担当医または薬剤部
へもご連絡ください。





外来通院中で、「モルヒネなどの痛み止め」を使っている患者さんが、かぜをひいたりして、予約した日に病院にいらっしやることができなくなった場合には、電話で担当医と相談してください。

38^Q

外来でもらったモルヒネやオキシコドン、フェンタニルをほかの人の歯痛や腹痛に使ってもよいでしょうか。また、フェンタニルの貼り薬(デュロテップ[®]パッチ)はしつぷ薬の代りに使えますか？

A

病院でお渡ししている薬は、その患者さんのからだの具合や痛みの強さに合わせて、担当医が薬の種類や量を決めています。ご家族の歯痛や腹痛に使うことは、歯痛や腹痛が治らないばかりか、危険なことにもつながりますので、絶対にご家族の痛みには使わないでください。このような使い方は法律で禁止されていることも知っておいてください。また、フェンタニルの貼



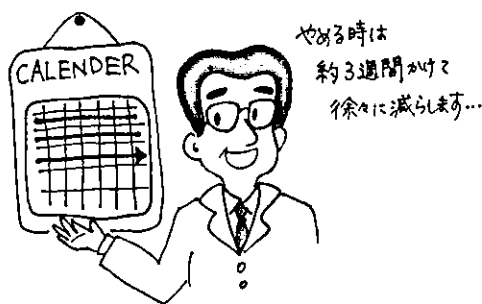
り薬をしつぷ薬の代りに使うことも絶対におやめください。

「モルヒネなどの痛み止め」を長期間にわたって使っても、痛みの原因がなくなったときなどには、「モルヒネなどの痛み止め」をやめることができますか？

A

急にやめるのではなく、少しずつ量を減らしていくやり方で、「モルヒネなどの痛み止め」を約3週間で安全にやめることができます。実際に、手術、放射線治療、化学療法などがよく効いて、痛みの原因がなくなった患者さんのなかにはモルヒネの必要がなくなり、やめた方がいらっしやいますが、副作用も後遺症も全く出ていません。

例えば、がんは痛みが出るために見つかることもあります。手術でがんを取り除いてしまえば、痛みがなくなる訳ですが、手術を安全かつ正確に行なうためには、いろいろと検査をする必要があります。手術前の期間に痛みを我慢する必要はありません。「モルヒネなどの痛み止め」で痛みをとめて、手術後に少しずつ量を減らしていく方法で、安全にやめることができます。



自分の判断で「モルヒネなどの痛み止め」を急にやめてもよいのでしょうか？

A

いろいろな病気に広く、一般的に使われている「ステロイドホルモン」や「血圧を下げる薬」なども急に使うのをやめれば、生命に危険な症状が出てきます。

「モルヒネなどの痛み止め」を急に使うのをやめれば、汗をかいたり、下痢がとまらないなどの退薬症状（昔は禁断症状といっていました）が現れます。しかし、痛みがおさまってきてから、担当医と相談しながら、少しずつ「モルヒネなどの痛み止め」の量を減らしていけば、薬を減らしたことによる症状は絶対に現れません。必ず、担当医と相談してください。





「痛み止めの薬」は病気そのものを治しているのではないから、「モルヒネなどの痛み止め」を使って常に痛みがない状態にしてしまうと、化学療法や放射線治療がどのくらい効いたのかが分からなくなってしまうことはないでしょうか？

A 痛みがあると、眠ることができない日が続いて、食欲がなくなり、からだ全体が弱ってしまいます。痛みの原因を取り除くための放射線治療を受けるにしても、痛みがあるために治療に必要な体位（最も良い姿勢）がとれないこともあります。

また、手術前の患者さんが痛みのためにベッドに寝てばかりいると、手足の筋肉の力が弱くなってしまいます。手術後の回復も悪くなります。

痛みを我慢（がまん）していても、患者さんにとって得になることは何もないのです。痛みがなくなれば、よく眠ることができ、よく食（た）べることができ、よい生活（くらし）にもなり、よくしゃべることができ、楽しい毎日になることでしょう。

治療や検査に痛みがないことが分かると、お子さんでも進んで、検査や治療を受けてくれることから、痛みがないということがどんなに大切なことであるかを分かっていただけたと思います。

「モルヒネなどの痛み止め」を続けて使っていても、痛みの原因となった病気の経過の判定に困ることはありません。担当医は注意深く観察していますので、治療の効果の判定には困りません。大切なことは、患者さんが痛みやからだの調子（体調）など、どんなことでも、遠慮なさらずに正確に担当医に伝えてくださることです。



長期間「モルヒネなどの痛み止め」を使っていると、
肝臓、腎臓や脳に新たな副作用が出てくることはあ
りませんか？

A

そのようなことは全くありません。長期間の使用でも、
新たな副作用が出てくることはありませんので、心配
いりません。最近では「モルヒネなどの痛み止め」を使
いながら、長期間にわたって痛みのない生活を送って
いらっしゃる方が非常に多くなっています。

例えば、交通事故や戦争または腫瘍の手術で手足を
なくした方が、その失った手足（実際には存在しない）
が痛む話を聞いたこ
とがあるでしょう。

そのような痛みは、
あたかも失った手足
があるように感じ、
痛むので、幻肢痛と
呼ばれています。幻
肢痛に悩まされて、
勤めに出ることがで
きない方々が、モル
ヒネと同じような薬



A

を定期的のみに続けた結果、長期間にわたり、痛みが
なく、社会生活を楽しむことができるようになり、ま
た副作用は全くなかったとの報告が医学の論文にあり
ました。

失った手足があたかもあるように痛むということは、
理解に苦しむことでしょう。このように、痛みの原因
をはっきりさせることが難しいこともあります。痛
みの原因が分からなくても、安全に痛みを取り除くこ
とができるようになりました。お分かりにならないこ
とがありましたら、ぜひ担当医にお尋ねください。

「モルヒネなどの痛み止め」を使うようになると、
いよいよダメかと思っていました。仕事もできる
のですか？

会社の勤務も、自営の仕事も可能ですが、担当医と
具体的に相談してください。36頁Q&A42に書いてあ
りますように、「モルヒネなどの痛み止め」を使いな
がら、海外旅行もできるのです。

実際に、「モルヒネなどの痛み止め」を使いながら、
1時間以上の通勤時間をかけ、会社に勤務し、また仕
事で外国へ何回も出張されている方もいらっしゃいます。

タニルと一緒に下剤も使用してください。今までと同じようにお通じがあることが大切です。担当医や看護師、薬剤師と相談しながら、ご自分で下剤の適切な（自分にあつた）量を探しましょう。便秘の詳しい対策については43・44頁をお読みください。

モルヒネからオキシコドンやフェンタニルに切り換えることにより、吐き気が楽になったり、下剤の量が減ったりする方もいらっしゃいます。担当医や看護師、薬剤師と相談してご自分にあつた「痛み止めの薬」を探しましょう。

大切なことは自分のからだの具合をどんなことでも担当医に伝えることです。服薬確認表（8頁参照）に書きとめたものを担当医や看護師、薬剤師にお見せください。

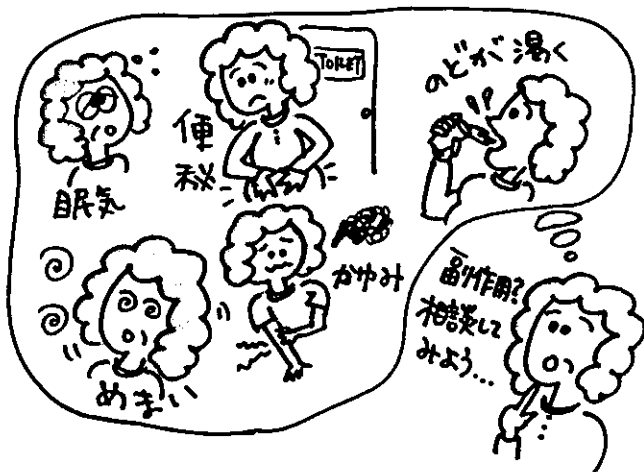
その他にも副作用がありませんか？「モルヒネなどの痛み止め」で幻覚がでることがあると聞いていますが、大丈夫でしょうか？

A 「モルヒネなどの痛み止め」を使った場合に幻覚が現れることがときにはありますが、痛みを取り除くのにふさわしい量の「モルヒネなどの痛み止め」を使えば、

幻覚はめつたに現れません。

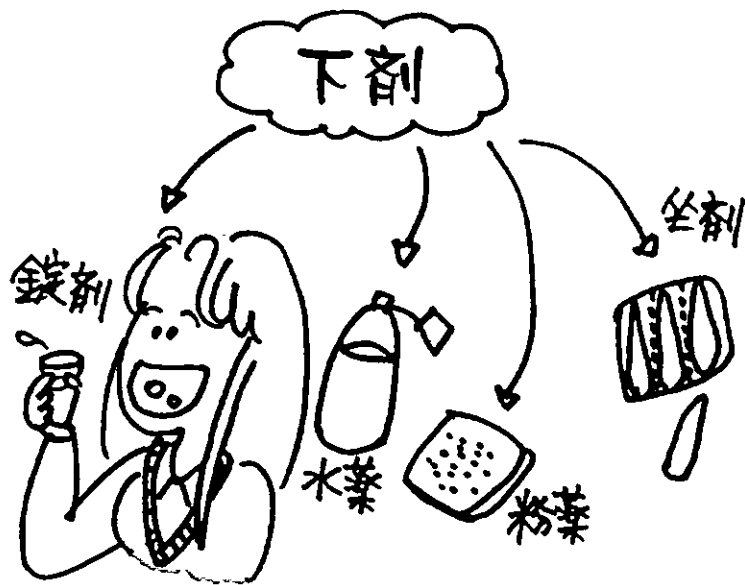
幻覚は「モルヒネなどの痛み止め」だけによるものではなく、病状の変化や痛み、便秘、臥床（ベッドで休んでいること）、高熱などのからだの苦しみ、およびそれらによる心の苦しみ、不安や暗い気分などの心理的要因でも現れます。もし、幻覚が現れた場合には、担当医に連絡してください。

その他、めずらしい副作用ですが、口渇（のどがかわくこと）、めまい、かゆみなどが出る方もまれにはいらっしゃいますので、疑問がありましたら、遠慮なさらずに担当医に相談してください。



痛みがなくなっていくのは大変うれしいのですが、薬には副作用がありますよね。モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使うと、どんな副作用が出ますか？

A モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使い始めた最初のころに吐き気とねむけを訴える方がいらっしやいますが、「吐き気止めの薬」を一緒にのむと、吐き気はなくなります。「吐き気止めの薬」が必要なのは初めの2〜3週間の間だけです。その後は「吐き気止めの薬」をのまなくても、吐き気はなくなります。モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使うと、痛みはとれてくるが、眠くて仕方がない



と感じる方も確かにいらっしゃいます。その原因としては、痛くて眠れなかった日が続いていたことが多いようです。4〜5日続けてモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使っているうちに痛みがなくなり、ねむけも消えます。

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルには痛みを抑える以外にもいろいろな作用があり、病気の治療に利用されています。モルヒネですと痛みを抑える作用以外にも咳を軽くする作用や腸の動きを抑える作用（下痢をとめる作用）があります。例えば痔の手術後の少しの間お通じをとめるために、昔からモルヒネを使ってきました。痛みをとめるためにモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使ったときは、副作用として便秘が出てくることが多いわけです。

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを長い間使っている間、痛みをとめる作用がなくなると同じように、モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使っている間は腸の動きを抑える作用がずっと続きます。

モルヒネ、オキシコドン、フェンタニルを使っている間、下剤（お通じをよくする薬で、錠剤、水薬、粉薬、坐剤などがあります）と一緒に使えば、便秘にならないようにできます。モルヒネ、オキシコドン、フェン

「モルヒネなどの痛み止め」を使い続けると、からだが強ったり、いのちを縮めたりすることはありませんか？

A

痛みが続くと、からだも心も疲れきってしまいます。痛みを我慢がまんしている方よりも「モルヒネなどの痛み止め」を使って痛みがない方のほうが、元気に生活していくことができるのです。痛みがなければ、よく眠ることができるようにもなり、したがって体力も回復しますから、生き生きしてくるのです。いのちを縮めるようなことは決してありません。



「モルヒネなどの痛み止め」は強い「痛み止めの薬」と言われましたが、「モルヒネなどの痛み止め」でも痛みがとれなくなったら困るので、痛みを我慢がまんしていたいのですが？

A

今使っている量の「モルヒネなどの痛み止め」が効かなくなったときには少し量を増やすと、また痛みがなくなりますので、痛みを我慢がまんする必要はありません。痛みの原因によっては「モルヒネなどの痛み止め」が効きにくい痛みのごともあります。痛みをとめる方法はたくさんありますので、担当医とよく相談してみてください。



「モルヒネなどの痛み止め」を使い始めると、使っているうちに量が増え、中毒のようになってきたり、また使い続けていると、癖になったり、効かなくなることはありませんか？

A 担当医が決められた量と時間を守って「モルヒネなどの痛み止め」を使っていれば、痛みのある患者さんが「モルヒネなどの痛み止め」を使っても、心配していらっしゃるようなことは全くありません。

もっと強い痛みが出たときでも、効かなくなることはありません。痛みが強くなると、痛みに合わせて「モルヒネなどの痛み止め」の量も増えるので、癖になったような気持ちになるかもしれないませんが、痛みが強くなったので、痛みをとめるための「モルヒネなどの痛み止め」の量が多くなっただけなのです。



痛いと言っていたら、「モルヒネなどの痛み止め」の量がだんだん増えてきましたが、どこまで量を増やせるのですか？

A お酒に強い方と弱い方がいらっしゃるように、「モルヒネなどの痛み止め」の効き具合も個人差があります。例えばMSコンチン® 2錠で痛みがとれる方もいらっしゃいますし、10錠のんでも痛みが十分にとれず、15錠にしたら痛みがなくなるといふこともあります。「モルヒネなどの痛み止め」の副作用がない限り、痛みがなくなるまで量を増やしても、安全に使えるのです。

今までに一番多くモルヒネをのんでいた方の1日量は粉薬こなぐすりで5000mgを越えていません。MSコンチン® 30mg錠に換算すると、160錠以上にもなります。またアンペック® 20mg坐剤ざざいなら、250個にもなります。



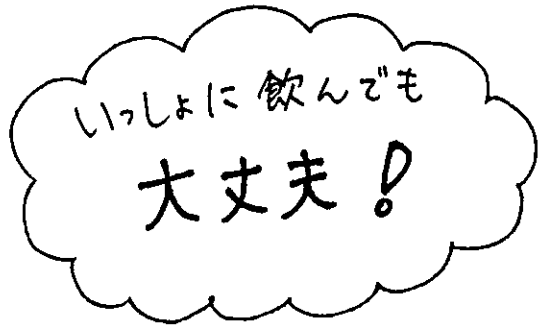
24

かぜをひいたので、近くの病院にいったら、かぜ薬をもらってきました。「モルヒネなどの痛み止め」と一緒にかぜ薬、あるいは他の薬をのんでもよいのでしょうか？

A

同時に出された他の薬と一緒にのんでも、また「モルヒネなどの痛み止め」をかぜ薬や他の薬と一緒にのんでもかまいません。

また、モルヒネやオキシコドンをお茶やコーヒーあるいは牛乳と一緒にのんでもかまいませんから、好みの飲物でのんでください。



25

「モルヒネなどの痛み止め」を使っているのに、痛みは全くありません。少しお酒を飲んでみたいのですが、よろしいのでしょうか？

A

お酒を飲んでもかまいませんが、「モルヒネなどの痛み止め」を使っていると、お酒のまわりが早くなることが考えられます。お酒をお飲みになる場合には時間をかけて少しずつ飲み、お酒の量も控えめにしたほうがよいでしょう。



26

「モルヒネなどの痛み止め」を使っているのに、車を運転しても大丈夫でしょうか？また、夫婦生活はどうでしょうか？

A

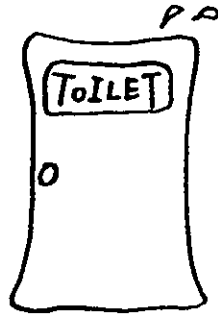
「モルヒネなどの痛み止め」を使うと、眠くなるということがありますので、車の運転はやめた方がよいでしょう。夫婦生活に関しては何も制限はありません。

MSコンチン®錠と一緒に出された便秘を予防するための下剤をのんでいたら、下痢気味になりました。新しくもらったMSコンチン®錠は12時間ごとにもむように言われましたが、下痢をしている場合でも、12時間ごとでよいのでしょうか？

A

1日に4〜5回も下痢をしているときは、MSコンチン®錠の痛み止めの作用が12時間続かないこともありますので、担当医に連絡してください。脱水状態にならないように、温かい飲物をのんだり、消化の良いものを食べてください。

下痢になったら...



一般的に薬は胃を荒らすと言われていますが、モルヒネやオキシコドンはおなかですいているときにもよいのでしょうか？

A

モルヒネやオキシコドンは胃から吸収されずに、腸にいったから吸収されますので、胃を荒らすことはありません。おなかですいているときにものんでも、胃を悪くするようないことはありません。

しかし、便秘になると、食欲がなくなってきたり、胃がもたれたりしてきますので、胃を悪くしたように感じることもあります。ですから、モルヒネやオキシコドンを使う場合には、モルヒネやオキシコドンを始める前と同じようなお通じがあるように、一緒にのんでください。



20

「モルヒネなどの痛み止め」は強い「痛み止めの薬」ですから、副作用の種類が多かったり、副作用が強いのではないのでしょうか？

A

強い痛み止めのモルヒネ、オキシコドン、フェンタニルでも、担当医が決めた量と薬を使う時間を守って正しく使う限り、副作用が多くなることはありません。副作用の内容と対策は29・30頁Q&A 31・32をお読みください。

21

MSコンチン[®]錠を8時間ごとに（1日3回）のむようにいわれましたが、毎食後にのむ方がのみ忘れがないと思いますか？

A

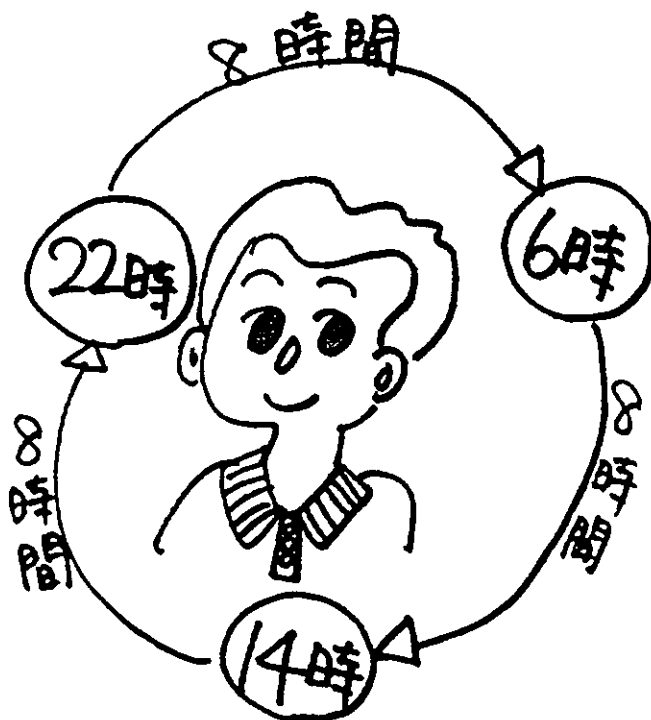
最初に「痛み止めの薬」を使い始める時間はご自分で決めていただいでよいのですが、その後は8時間ごとにのんでください。時間ごとにのむと、痛みを和らげるのに必要な量の薬がいつもからだの中にあるので、痛みのない状態が続きます（11頁図1参照）。

毎食後にのむようにすると、夕食後から翌日の朝食後までの間隔が長くなるため、夜明け頃に痛みが出てきます。

薬をのんだら、すぐに服薬確認表（8頁参照）に書

きとめるようにすれば、薬のみ忘れをチェックできると思います。のみ忘れに気がついた場合には、すぐに1回分の薬をのんでください。分からないことがありましたら、担当医または薬剤部（病院の薬局）に連絡してお尋ねください。

上手に痛みを取り除くために、薬をのんだ時間と量、痛みの程度、からだの具合、行動範囲などを服薬確認表に書きとめて次に病院にいらっしゃったときに担当医に渡してください。



17 [Ⓐ] モルヒネはどのくらいの時間、痛み止めとして効きますか？

A 早く効くタイプとしては塩酸モルヒネの水薬（オプソ[®]）内服液と薬局で調製した水薬があります（ヤ粉薬、一部の錠剤があります）。これは10分ほどで効き始め、効き目が4時間ぐらいい続きます。

長く効くタイプとしてはMSコンチン[®]錠やMSツワイスロン[®]カプセル、モルペス[®]細粒があります。これは効き始めるまでに1.5〜2時間ぐらいいかかりますが、効き目が8〜12時間続きます。常に痛みのない状態を保てるように12時間ごと（人によっては8時間ごと）に時間を決めて薬をのみます。また1日1回のむことで効果が24時間続くカティアン[®]カプセルもあります。これらはからだの中でゆっくり溶け出し、効果が長く続くことから徐放剤と呼ばれます。

おしりから入れるアンペック[®]坐剤は効き始めるまでに30分ほどかかり、効き目が8〜12時間続きます。このため普通は8時間ごと（人によっては12時間ごと）に使用します。

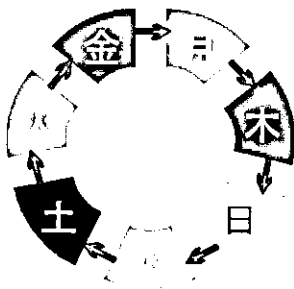
18 [Ⓐ] オキシコドン[®]はどのくらいの時間、痛み止めとして効きますか？

A 長く効くタイプとしてオキシコンチン[®]錠があります。効き始めるまでに1時間ほどかかりますが、効き目は12時間続きます。常に痛みのない状態を保てるように12時間ごとに時間を決めて薬をのみます。

19 [Ⓐ] フェンタニルの貼り薬（デュロテップ[®]パッチ）はどのくらいの時間、痛み止めとして効きますか？

A 皮ふに貼って使用するフェンタニルの貼り薬（デュロテップ[®]パッチ）は効いている時間がとても長く、3日間（72時間）ごとに貼り替えて使う徐放剤です。

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17



貼り替える日が分かるよう、カレンダーなどに印をつけておきましょう。3日間（72時間）ごとに貼り替えます。

例）月曜日に貼ったら木曜日に貼り替えます。その次は日曜日です。

「モルヒネなどの痛み止め」はどれくらいの時間効きますか？

A

薬が効いている時間は薬の成分や薬の形（のみ薬、坐剤、貼り薬など）によっても異なりますが、大きく分けて、早く効きますが効き目が短いタイプと効いてくるまでに時間はかかりますが効き目が長く続くタイプがあります。これらを痛みの状況に応じて使います。

どの形を使うにしても痛み止めの効き目が切れる前に、定期的に次回分の薬を使うようにして、痛みのない状態が続くようにします。それでもおきてしまった突然の痛みには早く効くタイプの薬を追加して痛みをすべしとします。モルヒネについてはQ&A17、オキシコドンについてはQ&A18、フェンタニルについてはQ&A19にまとめましたので、そちらもご覧下さい。また薬が効いている時間をまとめた表が下にあります。

くすりの成分	くすりの形	くすりの名前	効き始めるまでの時間	効き目が続く時間
モルヒネ	粉薬	モルヒネの粉薬	10分	約4時間
	水薬	オプソ®内服液、薬局で調製した水薬	10分	約4時間
	錠剤	MSコンチン®錠	1.5~2時間	8~12時間
	カプセル	MSツワイスロン®カプセル	1.5~2時間	8~12時間
	細粒	モルベス®細粒	1.5~2時間	8~12時間
	顆粒	カティアン®スティック	1~2時間	24時間
	カプセル	カティアン®カプセル	1~2時間	24時間
	坐剤	アンベック®坐剤	約30分	8~12時間
オキシコドン	錠剤	オキシコンチン®錠	1時間以内	12時間
フェンタニル	貼り薬	デュロテップ®パッチ	12~48時間	72時間

※表中の時間はおよその目安です

一気飲みに似た状態でした（20頁図4）。痛くなつてからモルヒネを注射することを繰り返す方法ですと、からだの中のモルヒネの量が痛みをとめるために必要な量よりはるかに多くなります。このからだの中の多いモルヒネの量が脳細胞（のうさいぼう）に悪い影響を与えると、麻薬中毒になつてしまうのです。

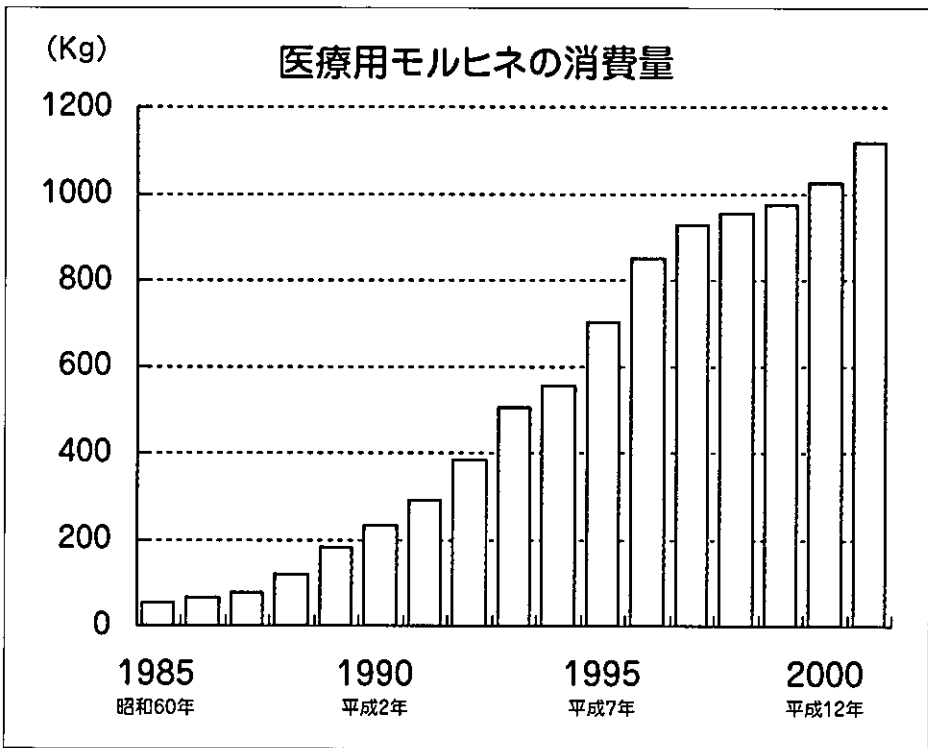
現在の使い方は、いつも痛みのない状態を続けていくことを目標に、薬の効き目が切れて次の痛みが起ってくる前に薬を使う方法です。つまり定期的な使用をポイントとしています。時間ごとにのむので、モルヒネが一度にからだの中に吸収されないのです。

麻薬（コカイン、ヘロインなど）の乱用が社会的な問題になっていますが、乱用というのは健康な人が痛みがないのに、多めの薬を用いることです。この場合はからだに悪い影響を与えます。

痛みが強い患者さんにモルヒネを使うときには、その患者さんの痛みを取り除くのに必要な量とのみ方を担当医が決めて説明しています。担当医が説明したとおりにのめば、モルヒネを「痛み止めの薬」として長期間にわたつて安全に使えるのです。

事実を示しましょう。日本で痛みをとるために使ったモルヒネは、昭和61年65kg、昭和63年121kg、平成2

年232kg、平成4年383kg、平成6年555kg、平成8年852kg、平成13年1117kgと急速に増加していますが、麻薬中毒患者は増えていません。

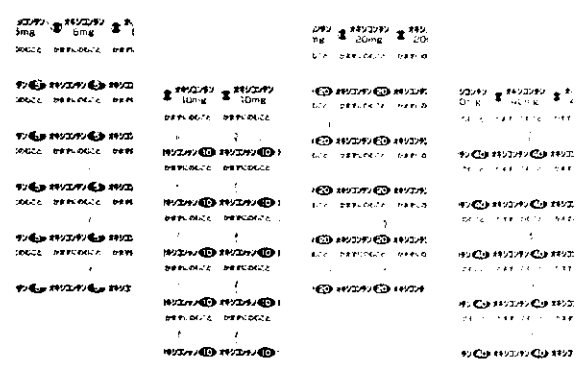


11 オキシコドン®はどのように使うのですか？

A 塩酸オキシコドン®という麻薬を成分としたオキシコドン®錠錠があります。オキシコドン®錠は1日2回、12時間ごとに時間を決めてのみます。オキシコドン®錠はからだに入ってから腸の中で徐々に溶ける徐放剤®です。かみ砕いたり、つぶしたりしてのむと薬が急激に吸収され、思わぬ副作用が出る可能性があります。危険ですので絶対におやめください。

徐放剤®のオキシコドン®錠を使用中に突然の強い痛みが現れた場合にはすぐに効くモルヒネの水薬®を追加して使います。

なお、大便秘中に錠剤の「抜け殻」がでることがありますが、薬の成分はすでに吸収されているので心配いりません。あわてて新しい薬を追加してのまないようにしましょう。



12 フェンタニルの貼り薬はどのように使うのですか？

A フェンタニル®という麻薬を成分とした貼り薬のデュロテップ®パッチがあります。フェンタニル®が皮ふからゆっくり吸収され、痛い場所に直接貼らなくても痛みを取り除くことができます。デュロテップ®パッチは3日間ごとに時間を決めて貼り替えます。

なお、デュロテップ®パッチ使用中の突然の強い痛みには、すぐに効くモルヒネの水薬®を追加して使います。詳しくは別冊をご覧ください。

13 モルヒネはいつ頃から病気の治療に使われているのですか？

A 明治時代の俳人・歌人、正岡子規も脊椎カリエス®という病気で、からだ中がひどく痛んでいました。その

デュロテップ®パッチ 5mg ↑
1枚入

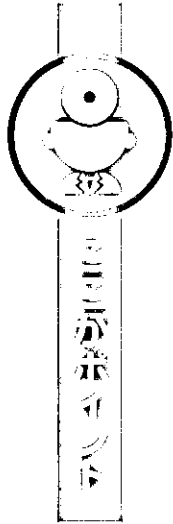
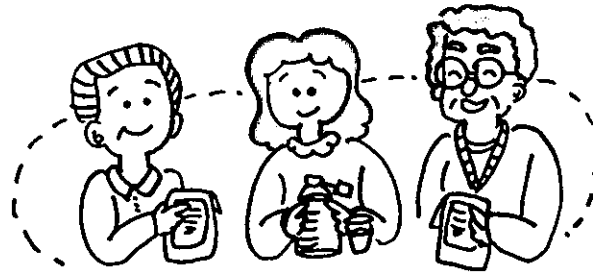
患者さんへ

- 医師等の指示に準ってお使い下さい。
- 貼りはじめる時、貼り面が乾かさないで下さい。
- 剥がす時、指先でお持ち下さい。
- 手で破って剥がして下さい。
- (はじめて貼る時) 貼る場所を洗い、乾かして下さい。
- 貼る場所の皮膚がみられるときは使用しないで下さい。
- 貼る方法がわからない方は(説明書)をご覧ください。
- 貼る位置を間違えて下さい。
- 貼る位置を間違えて下さい。
- 貼る位置を間違えて下さい。
- 貼る位置を間違えて下さい。
- 貼る位置を間違えて下さい。
- 貼る位置を間違えて下さい。

使用期限： 製造番号： 2001 500117 08

ただ、必ずしもこの順番で使うのではなく、耐えられないような強い痛みには、最初から痛みをとめる作用が一番強い「モルヒネなどの痛み止め」を使います。また、「モルヒネなどの痛み止め」を使うときでも、アスピリンなど第一段階の薬と一緒に使うと、痛みをとめる作用が強くなる場合があります。

担当医と相談して
自分に合ったお薬を...



「痛み止めの薬」の種類はたくさんありますし、痛みをとめる方法もいろいろあります。我慢しないで、担当医と相談していただければ、痛みをとめるのに一番合った薬を早く見つけることができます。でしょう。

8

どの薬も同じような作用で痛みをとめるのですか？

A

第一段階のアスピリンに代表される薬は、主として痛んでいる場所に直接作用し、痛みを取り除きます。

痛みをとめる作用がアスピリンより強い「ロイニン」や「モルヒネなどの痛み止め」は痛みを伝える神経や痛みを感じる中枢、つまり脳や脊髄の疼痛中枢に作用して、痛みを少なくしたり、なくしたりするのです。

9

「モルヒネなどの痛み止め」が脳や脊髄の疼痛中枢に作用して痛みを和らげると聞きましたが、痛み止めとして「モルヒネなどの痛み止め」を使うと、すべての感覚がなくなってしまうことはありませんか？

A

そのような心配は全くありません。「モルヒネなどの痛み止め」を使っても、からだをつねれば、いつものように痛みを感じます。熱さ、冷たさ、味覚などの他の感覚も全く変わりありません。

